

エクスカージョン「東京湾多摩川河口干潟アサクサノリ観察会」の参加記 吉田野空海

日本藻類学会第38回エクスカージョン「東京湾多摩川河口干潟アサクサノリ観察会」が2014年3月17日に開催され、私も参加させて頂きました。

当日は参加者20名、エクスカージョンにご協力いただいたNPO法人多摩川干潟ネットワークスタッフ3名と川崎市職員1名、そして講師の千葉県立中央博物館分館海の博物館の菊地則雄さんと海の博物館スタッフ3名の計28名でした。大師河原水防センター（大師河原干潟館）に集合し、それぞれウェーダーや長靴を装備してアサクサノリの生育地までおよそ2.5kmを多摩川の下流に向かって歩きました。途中、各々の自己紹介をしながら、春風を感じつつのウォーキングとなり、皆アサクサノリの採集に向けてわくわくしていました。途中からアシの生育が見られ、干潮時になってきたので干潟が現れ始めました。菊地さんが「まだこの辺りにはアサクサノリは生育していません。」「そろそろアサクサノリの生育ポイントです。スサビノリはもう少し河口に生育しています。」などと説明して下さいました。菊地さん自身、多摩川河口で初めてアサクサノリを発見した際には、多摩川河口をくまなく探したそうです。

アサクサノリ生育地点に到着すると、参加者はそれぞれにヨシの根元に目を凝らし、「あった!」「これがアサクサノリか!」と歓声をあげました。私も初めて見るアサクサノリに感

動し、アシをかき分けながら、根元にあるアサクサノリを素手で採集しました。水に浸かるか浸からないかの所に生育しているため、乾燥しているものも多かったです。その場で食べてみると、潮の香りがして何ともいい気分になりました。

干潟館に戻り、バット内に入れたアサクサノリを観察しました。3月中旬であったため、ノリのシーズンは終わりを迎えています。このためか藻体は弱っていたようで、厚みは薄く、かなり柔らかい感じがしました。

菊地さんの「アサクサノリはこんなところに生えているのだということなるべく多くの人に知ってもらおう」という、当初の目的は達せられたと思います。次回は冬のノリのシーズンに訪れてみたいと思います。私事ですが、4月から「大森海苔のふるさと館」で勤務しております。普段は「海苔付け」体験でスサビノリを扱っていますが、やはりアサクサノリとは色や厚みが違います。アサクサノリを採集できたら、アサクサノリで板海苔を作ってみたいと思います。焼いてみるとまた違った味になることでしょう。

最後に、菊地則雄さんを始め、エクスカージョンを企画・運営して下さいました皆様へ感謝申し上げます。ありがとうございました。

(東京海洋大学)



干潟にて採集



干潟館にてソーティング



アシに着生するアサクサノリ



参加者記念撮影